

都市と農山漁村の共生、あきらめないことの大切さ、 小さいことのすばらしさ

東京大学名誉教授 大森 彌

私が全国町村会とお付き合いをさせていただきましたのは、1986年、昭和61年からでした。私がまだ40代の半ば頃であります。それ以来35年間の付き合いをさせていただいているので、むしろ私が皆様方に感謝申し上げなければならぬのですが、本日皆様方の方から感謝状をいただきまして大変恐縮しています。ありがとうございました。

この間、全国町村会の調査研究活動や、全国・全国民に向けて町村会が訴えようとしてきた各種の提言の作成をお手伝いしてきました。そのために全国の農山漁村地域を巡り、町村長さんや職員の方々と語り、何が大事なことであるかを学んでまいりました。全国町村会はいろいろな荒波に遭遇し、外から見てもこれはどうなるかなと心配がなかったわけではありませんが、見事に乗り切ってきたのではないかと考えています。

そして本日、返礼として3つのことを改めて強調したいと思います。1つは、農山漁村地域が衰退し減ったら都市は必ず滅びるのです。ですから農山漁村地域と都市は、お互いに足らざることを補って共生していく、そのことを国是とすべきであると私は考えてきました。

2番目は、町村という自治体は、法人ですから、町村長さんと議員さんと住民が自ら自治体であることをあきらめない限り無くなりません。人口が減少したくらいで町村という自治体が消滅するということはありません。このことが大事でして、皆様方が、あるいはこれから引き継いでいく町村長の皆様方がどうお考えになるかがきわめて重要だと思っています。

3 番目は、町村は相対的に規模が小さい、小さいと言われていてます。小さいがゆえに困難が多いのではないか、大きくなればよいではないかと言われてます。そのことをすべては否定しませんが、小さいことにも意味がある、小さいことにもすばらしさがある、それをスモール・イズ・ビューティフルと言っています。私はこの点も大事だと思っています。

私も実はもう 81 歳を超え、老骨の身であります。今後も皆様方にお役に立つかどうか分かりませんが、終生、全国町村会、各地域の町村の皆様方の応援団の一人であり続けたいと思っています。今後ともよろしく願いします。本日は誠にありがとうございました。